

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-14616

(43)公開日 平成10年(1998)1月20日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 44B 19/26

A 44B 19/26

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平8-206328

(71)出願人 591115279

株式会社アイリス

群馬県太田市飯塚町1933

(22)出願日 平成8年(1996)7月1日

(72)発明者 大隅 金三

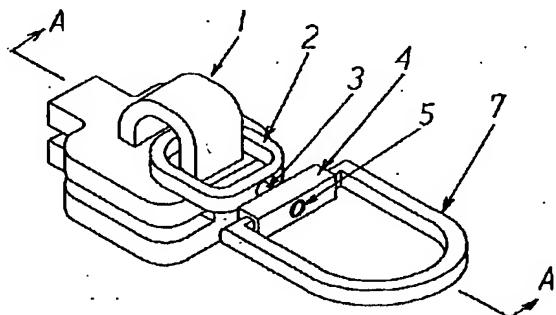
群馬県太田市飯塚町1933番地 株式会社アイリス内

(54)【発明の名称】スライドファスナー用スライダーの引手

(57)【要約】

【目的】スライドファスナー用スライダーの引手に関し、引手本体が回転することによりファスナーの開閉時に引手方向の制限を解消する。

【構成】本発明は、スライダー胴体1に装着されたクランパー2の一端に二段式の円筒部3を設け、この円筒部3が柱状の引手補助部4の中央にある二段式貫通孔5に入り先端を嵌め、円筒部3を中心として引手補助部4が回転可能となっており、さらにコの字形の両先端内側に円柱状の突起物6が向い合うように配置された引手本体7が、引手補助部4の両端側面の穴8に、前記円柱状の突起物6が入り嵌着され、円柱状の突起物6を中心に回転可能になることにより形成したことの特徴とするスライドファスナー用スライダーの引手。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】スライダー胴体1に装着されたクランバー2の一端に二段式の円筒部3を設け、この円筒部3が柱状の引手補助部4の中央にある二段式貫通孔5に入り先端を嵌め、円筒部3を中心として引手補助部4が回転可能となっており、さらにコの字形の両先端内側に円柱状の突起物6が向い合うように配置された引手本体7が、引手補助部4の両端側面の穴8に、前記円柱状の突起物6が入り嵌着され、円柱状の突起物6を中心に回転可能になることにより形成したことを特徴とするスライドファスナー用スライダーの引手。

【請求項2】引手補助部4の両端に円柱状の突起物6があり、引手本体7の両端内側に前記円柱状の突起物6が入る穴を有する請求項1記載のスライドファスナー用スライダーの引手。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、スライドファスナー用のスライダーに関し、特にスライダーの引手に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、スライドファスナーの引手はクランバーと引手本体との2パートで、クランバーの一端に棒状で引手本体の受け部の付いた柱状部があり、この柱状部の両端に穴部を持ち、コの字形の両端に円柱状の突起が向い合うように位置する引手本体が前記柱状部の穴に嵌着され、クランバーと引手本体とが一体となっていて、かつ動きも一体化しているものが一般的である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】スライドファスナー用スライダー引手において、クランバーと引手本体とは一体となった動きをするため、使用者が引手を持ってスライドファスナーを開閉する時、引く方向によっては開閉しづらく引く方向を制限してしまったり、またスライドファスナーの開閉時スライダー胴体とクランバー部とに引く方向によっては無理な力がかかり耐久力を減少させる。本発明は、前記事情に鑑みてなされたもので、前記問題点を解消したスライドファスナー用スライダーの引手を提供することを目的とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】前記の目的を達成するため、本発明のスライドファスナー用スライダーの引手は、スライダー胴体1に装着されたクランバー2の一端に二段式の円筒部3を設け、この円筒部3が柱状の引手補助部4の中央にある二段式貫通孔5に入り先端を嵌め、円筒部3を中心として引手補助部4が回転可能となっており、さらにコの字形の両先端内側に円柱状の突起物6が向い合うように配置された引手本体7が、引手補助部4の両端側面の穴8に、前記円柱状の突起物6が入り嵌着され円柱状の突起物6を中心に回転可能になることにより形成したことを特徴とするスライドファスナー

用スライダーの引手を主な構成としている。

【0005】引手補助部4の両端に円柱状の突起物があり、コの字形の引手本体7の両端内側に、前記円柱状の突起物が入る穴を有するスライドファスナー用スライダーの引手である。

## 【0006】

【作用】引手本体7がクランバー2の円筒部3を中心に回転することと引手補助部4の側面を中心に引手本体7が回転することにより、ファスナーの開閉時に引手方向を制限しなく自由に行なえる。

## 【0007】

【実施例】図1は、組合せ前の状態を示し、2はクランバー、4は引手補助部、7は引手本体からなるスライダー引手である。クランバー2において、一端に二段式の円筒部3が突設してある。引手補助部4には中央に二段式貫通孔5が設けられており、両端には引手本体7の突起物6が入る穴8を有している。引手本体7には両先端内側に円柱状の突起物6が向い合うように配置されている。

20 20 【0008】図2は、スライダー胴体1に本発明のクランバー2、引手補助部4と引手本体7とが嵌着され一体となり装着された状態を示している。嵌める手順は、クランバー2の二段式の円筒部3を、引手補助部4の貫通孔5に挿入して嵌め、次に引手補助部4の両端の穴8に引手本体7の突起物6を差し込み、嵌めてスライドファスナー用スライダーの引手として、完成させる。材質については、金属や合成樹脂を使用するが、特に、合成樹脂ではスライダーの引手として好ましい樹脂を使用する。また、引手本体7については、金属製の場合はコの字形が引手補助部4に入りやすいようにやや開いてあるが、合成樹脂の場合は、その弾力性によりコの字形の開きがほとんどなくてよい。

## 【0009】

【発明の効果】クランバー2の円筒部3を中心にしてスライダーの引手本体7が回転可能かつ引手本体7も引手補助部4の側面を中心に回転可能なので、ファスナーの開閉時に、引手方向を制限しない。そのため、使用者がファスナーを開閉する際、違和感や不便さなどが解消され、商品価値が向上する。また、ファスナー開閉時の引手方向を制限しないため、無理な力をかけないのでクランバー2とスライダー胴体1との劣化や損傷が防止できる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る引手本体、引手補助部、クランバーの組付け前の状態を示す斜視説明図である。

【図2】同組付け後、さらにスライダー胴体に組付けた状態を示す斜視説明図である。

## 【図3】図2のA-A断面の説明図である。

## 【図4】図1を組付け後の状態を示す上面図である。

50 50 【図5】従来例であるスライドファスナー用スライダー

(3)

特開平10-14616

3

の引手の斜視説明図である。

【図6】扇引手の上面図である。

### 【図の内引】

### 【特徴の説明】

### 1-ストライ

### 2. ラジオ

### 3. 田舎部

4-引手補助部

### 5—貫通孔

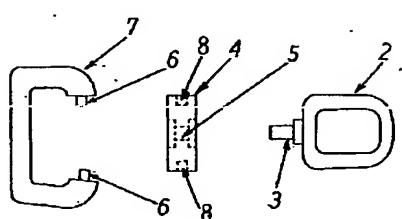
6-突起物

7-引手本体

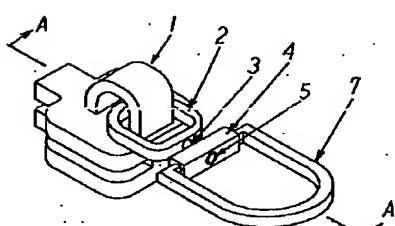
8-穴

八

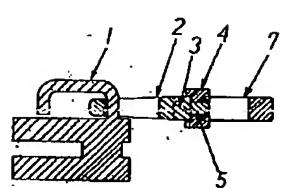
[図1]



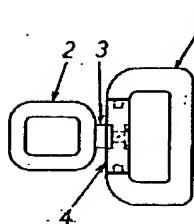
〔图2〕



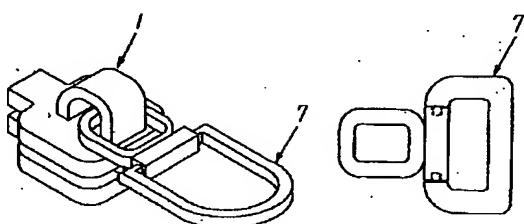
[图31]



[図4]



〔図5〕



【図6】